

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500099		
法人名	有限会社 ケアつかさ		
事業所名	グループホーム コスモやよい		
所在地	大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490500099&SCD=370
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分県大分市大字羽屋21番1の212 チュリス国府宮番館1F
訪問調査日	平成22年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた環境の中、事業所の理念の一つに掲げている「寄り添う介護」を目標に、日々のケアに取り組んでいます。
職員と入居者が一緒に暮らしているという意識を持ち、喜怒哀楽を共に経験したり、生活の中で役割を持って頂いたり、お互いが協力し合い助け合いながら、思いやりのある生活が続けられるように心がけています。
また、家族との関係を大事にして、面会の際にはゆっくりと過ごして頂くようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲の山々や目前に広がる田園から、四季折々の移りを味わえる環境の中に2ユニットの施設が在ります。施設の玄関に毎年飛来するツバメが幾つもの巣を造り顔を待つヒナが見え隠れする様は、長閑な雰囲気と趣を添えています。廊下の空間はアマチュア写真家の作品が展示されており、居間には手作りの作品や思い出の写真が飾られ、明るく温かな集いの場作りに取り組んでいる様子が見えました。管理者は、職員の個性も大切な資質であると認識しており、個々の職員が自己の向上に努めながら、利用者一人ひとりに寄り添える介護者として成長していく中で、さらに、施設を支える一員として「共通の意識」を持ち、より一層、積極的に職務に励む事の出来る職場作りを努めている思いが伺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を玄関と事務所に掲示しています。 毎朝、朝礼時に職員で復唱して実践できるように努めています。職員会議の中で理念の大切さを話し合ったりしています。	会議では理念を掘り下げて説く中で、「質の向上」を前提に、理念を志としながら日々の介護に努めています。また、理念の実践に繋がる支援に向けて、全職員が共通の意識の中で取り組める職場作りを目指している様子が伺えます。	一人ひとりの職員が「理念の共有」の必然性を理解する中で、チームワークを大切に介護の実践に意図的・意欲的に取り組みながら、更なる資質の向上を目指し、全職員で邁進されることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などに出かけた時には、近隣の人と挨拶を交わしたりします。野菜の苗をもらったり、育て方を教えてもらったりすることもあります。敷地内で近所の子供が遊ぶ姿もみられます。	地域行事(かぐら)や近隣の子どもの遊び場として敷地を提供しています。子どものトイレ利用等にも対処しており、日常的な地域との交流に努める中で、徘徊時の協力も得ています。また、民間ボランティアの受入れも可能です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏休みに近所の中高生がボランティア体験をしてくれました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で活動報告や入居者の生活の様子などを報告しています。地区の代表や民生委員の方からホームの取り組みについて意見を出してもらおうように努めています。	地域間の友好な相互の関係作りには、顔なじみの間柄の大切さを踏まえており、会議内の雑談も不可欠である事を意識に置く中で、地域のバックアップと協力を得やすい環境作りを育んでいます。職員への報告等も行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の地域包括支援センターの職員に出席してもらい、行政面からの意見を聞いています。また、困難事例について相談し、経過を報告しています。	市担当者への訪問(相談)が行われています。地域包括センターとの継続的な協力体制の基で、処々の事例に取り組んでいる様子が伺えます。また、各行政機関との相互の繋がりを大切にしながら日常の支援に取り組んでいます。	市担当者の訪問受入れの態勢は有しています。今後の取り組みに期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で資料をもとに身体拘束についての勉強会をしました。身体拘束をしないという意識を持ち介護に取り組んでいます。	身心の拘束排除への勉強会を持つ中で、日常的なケアの実践に即した検討を通して、全職員への意識付けに取り組んでいます。夜間の転倒防止策として、杖に鈴を付ける等の工夫を行いながら、制止しないケアと安全な生活に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間の勉強会で虐待防止についての勉強をして認識を深め、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、現在それに関わる入居者はいませんが、必要になれば関係者と対応できるように努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書を渡して説明しています。入退院時や利用料等、その他ご家族の疑問や心配事については十分に説明して、署名、捺印していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。また、日々の暮らしの中で入居者からの訴えを聴くように努め、家族の面会時に意見や要望があった場合には職員間で共有し介護に反映できるようにしています。	管理者を軸として家族との対話が行われており、家族の思いの把握に努めながら、全職間での衆知が図られています。家族との信頼関係への取り組みとして、在りのままの姿を伝える事を第一に、相互のコミュニケーションに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を求めて代表者に報告して、運営に反映しています。	管理者は、日常的なコミュニケーションを大切する中で、職員の気づきへの実践やアイデアの提案等を貴重とし、全職員の意識向上を目指した日々のケアと、相互の関係づくりに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所に立ち寄り、職員の勤務状況を把握して、職員が向上心を持って働けるように環境の整備に努めるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格所得のための講習や種々の研修会への参加のため勤務調整をしています。各研修会への案内を掲示して希望者にはなるべく参加できるように配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	権利擁護については、現在それに関わる入居者はいませんが、必要になれば関係者と対応できるように努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出向いて本人と面談をしています。本人の困った事や要望をよく聴いて施設での対応を話しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設に見学に来て頂いて、家族の心配事や要望を傾聴するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談で本人や家族の状態を把握して、適切なサービスが支援できるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として謙虚な態度で接し、学ぶ姿勢で関わっています。一緒に生活しているという気持ちを持ち、洗濯物たたみや茶碗洗いなどできることは手伝ってもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に間に入り、一緒に話をしたり、日頃の生活の様子を伝えたりして共に過ごす時間を作るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が面会に見えたり、外出先で偶然会うこともあるので、その時間を大切にして過ごしてもらっています。	利用者の表情や仕草の変化に配慮しながら、安心して外出(馴染みの病院等)できる雰囲気作りへの心配りに努めています。家族等との交流を大切に捉える中で、利用者や家族の要望に応じた支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者間の人間関係を把握して、座席の位置を工夫するなど、皆が気持ちよく暮らせるように言葉かけや働きかけを行っています。お互いを思いやる姿も多く見られます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に会いに行ったりしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で多く話しをしたり、聴いたりすることで本人の思いを把握するように努めています。意思表示が困難な方は、家族から聞いたりしています。	安心して生活できる施設の在り方として、職員が顔色や体調・心情を共有する中で、利用者一人ひとりが抱く不安の解消に努める事を第一義としながら、利用者や家族との信頼関係作りと保持に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等今までの暮らしについて家族や本人に聞いています。1度に把握できないので入居後にも家族や本人より聞くように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活動作や認知症状の様子を見る中で、一人ひとりの生活リズムや、できることとできないことを把握するように努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を考慮しながら、どのように暮らしていきたくのかを話し合ったり、ケース会議で職員間で意見を出し合い検討しています。	利用者や家族等の思いを大切に捉える中で、一人ひとりに対応した支援への取り組みに向け理解を図りながら、計画の策定が進められています。プランの実践に当たり、職員の意見を考慮した上で作成されています。	今後は職員と共に立案し、介護計画の策定に取り組む体制に向け徐々に移行したい旨もあります。職員の学びと向上への姿勢が基調となる中で、より積極的な意見がプランに反映される事に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日常の生活の様子や気づきを記録して、情報の共有に努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に添いながら外出や受診の支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の公民館で歌謡ショーがあり、数名鑑賞に行きました。とても喜んでいました。地域の振興局に期日前投票に行き、市職員の協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人が希望するかかりつけ医で受診するようにしています。受診時には職員が同行して主治医との連携に努めています。家族が受診に同行してくれる方もいます。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっています。受診時には職員が同行し、素早い対応と連携づくりに努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で看護師を配置して、入居者の健康管理を行っています。医療面で相談、助言をしてもらったり、様子の変化を報告して対応するようにしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を医療機関に提供しています。また、入院先に面会に行き状態を確認して、病院内の医療連携室と連絡を取り合いながら状況把握、早期退院の調整をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一人ひとり病気の状態については受診時に主治医と話をし、家族に伝え情報を共有しています。重度化や終末期に向けて施設でできる対応について、家族と話し合い、方向性を確認するように努めています。	終末期のみとは現在行われていませんが、入所時に家族の方と施設で出来る対応について確認がなされています。主治医・家族・事業所で方針の共有が来ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等は、看護職員に教えてもらい指示のもと行っています。急変時の対応については職員全てが実践できるようにしていきたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年1回防災訓練を実施しています。運営推進会議で地区の方に防災時の協力支援を確認しています。	年1回の消防署指導による防災訓練を行っています。訓練時には推進会議へ参加の呼びかけを行っています。	夜間などの災害対策に備え、訓練時に地域住民・関係団体・地域の消防団等の参加を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応ができるように努めています。馴染みの関係であっても節度ある態度で接するように気をつけています	親しい中にも一人ひとりの人格を尊重し、その人その人に合わせた支援を行っています。実際の支援の場面においても人生の先輩として接している様子が見られます。プライバシーの保護に対して研修を行い全職員で勉強会を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活する中で、自分の言いたいことやしたいことなどの思いを話せるような雰囲気づくりをしたり、言葉かけをしたりしています。選択肢の中から自分で決めてもらう働きかけ等もしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分、生活リズムに合わせて無理のないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装、髪形を考えた身だしなみができるように配慮しています。服装については一緒に考えたり、それができない方には職員が選ぶようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節により、菜園で入居者の方と一緒に作った野菜を使います。野菜の皮むきなどのごしらえや茶碗洗いなどを手伝ってもらっています。職員は弁当を持ち、入居者の様子を見守りながら食事をしています。	施設内で栽培をした野菜などを使用し、下ごしらえ・片付けなどを一緒に行っています。食欲のない利用者さんにはおかゆやメニュー変更をし、個別に対応しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	テラツクソフトで食事摂取量、水分記録表で1日の水分摂取量を記入しています。定期的にお茶の時間を設けて水分摂取に努めています。飲みたがらない方もいて、いろんな工夫をして声かけし飲んでもらっています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけして口腔ケアを行っています。一人で出来ない場合は手伝い、義歯もその都度外して洗い、就寝時には水につけて保管しています。週1回、洗浄剤を使用。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、その人の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導で、なるべく失敗のないように努めています。夜間のみポータブルトイレを使っている人もいます。	排泄チェック表や排泄パターン・習慣・体調を把握し、声かけ・誘導を行っています。失敗しない為の勉強会をユニット毎に行っています。羞恥心や不安を軽減する為に信頼関係づくりを心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や便秘予防を考慮した食事ができるように努めています。排便表やチェックシートで状況を把握して対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回ユニット毎に午後入浴しています。入浴拒否がある人にはチームプレイでうまく入れるように工夫しています。入浴できない時には清拭をして保清に努めています。	週3回ユニット毎にぬるい湯・長い湯・他の利用者さんとの入浴など個別の希望に沿った支援を行っています。入浴日以外や朝・夜間などにも対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調を考慮して居室や居間のソファで休んでもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎のファイルに薬の説明書を保管しており、職員が把握できるようにしています。服薬は職員が飲み終えるまでの確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むき、畑の草むしりなどを手伝ってくれます。また、好きな飲み物を飲んだり、ビデオを見たりして楽しみの時間を持てるように配慮しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ユニット毎にドライブに出かけたり、少人数で近所に散歩に行ったり、なるべく多く外出できるように努めています。	天気や気温・体調に配慮しながらの散歩や、季節に応じて海や山・ドライブを楽しんでいます。居間に掲示された写真からも、外出時の楽しそうな様子がうかがえます。家族の方の協力を得て馴染みの場所への外出や車椅子利用の方にも配慮がなされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金のある方でも管理は困難なので施設で預かっています。日用品やおやつをかうの楽しみにしている方もいて、お金を払ったり、おつりをもらったりする機会を大事にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で手紙や電話の取り次ぎをすることがあります。家族との電話はとてもうれしそうに話しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所はいつも整理整頓して、清潔を心がけています。居間には季節の行事毎の写真や飾りつけをしています。	共用の空間には大きなソファや畳が敷いてあり、利用者さんが集まり会話や笑顔にあふれた空間となっています。天井が高く大きな窓により、開放的で明るい雰囲気となっています。壁には四季の飾り物や利用者さんの作品が掲示され、自分の居場所を感じられる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファや椅子が置いてあり、自由に座りくつろいでいます。畳の間もあり、テレビを見たり、洗濯物をたたんだり、仲良く話をしたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には整理たんすとベッドを設置しています。壁時計や目覚まし時計、家族の写真、小物入れなどを持ち込み、置いている方もいます。職員の作った段ボールの本棚なども使ってくれています	馴染みの寝具や家族の写真・家族の方からの置物などが飾られていて、その人らしい部屋づくりが感じられます。	持ち込みに制限はなく自由な受入れを提案されていますが、家族・関係者からの情報を取入れて個別に応じた取組みに期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、廊下やトイレ、浴室等には手すりをつけて、活用しています。また、個々の身体機能に合わせて車椅子や歩行器を使用しています。転倒しないように職員がいつも気をつけています。		